



No.62

The University of Tokyo Forests News

科学の森ニュース

June 10, 2013

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

70周年を迎えた樹芸研究所が「温室本」を発刊しました

樹芸研究所

1943年に開所し、今年で70周年を迎えた樹芸研究所は、このたび「東京大学樹芸研究所 温室本 芸のある植物たち」（以下、温室本）を東京大学演習林出版局より発刊しました。暖かい気候と温泉熱を利用している本所の温室は1947年に完成して以来、本所の教育研究に重要な役割を果たしてきました。現在、約300種の熱帯・亜熱帯の特用樹木がありますが、温室本ではコーヒー、カカオ、バニラなど日常生活になじみの深い熱帯植物40種を選び、花や実の写真を載せるとともに、誰もが楽しく読める解説をつけました。できたての温室本を手にとり、温室内の植物たちを見ていただければ、さらに理解を深めていただけることと思います。皆様のお越しをお待ちしています。

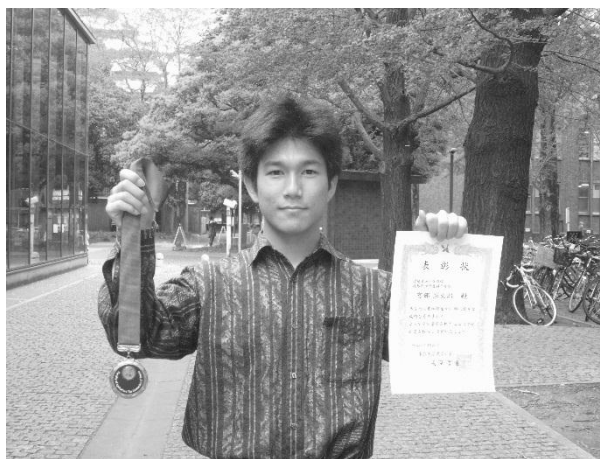


「科学の森ニュース」のバックナンバー（PDF形式）は東京大学演習林のホームページからダウンロードすることができます。
(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>)

宮部さん農学部賞受賞

教育研究センター

平成 25 年 3 月 26 日、演習林所属学生の宮部涼太郎くんが農学部学部長賞を受賞しました。本賞は各専修において、学業成績が極めて優秀な学生に贈られる賞です。文科 I 類から森林環境資源科学専修に進学した宮部くん。受賞式では、農学部には実に多様な専修があることに驚かれたそうです。現在、宮部くんは修士課程に進学しており、修士課程でも研究、学業ともに更なる活躍を期待しています。



賞状とメダルを手に。足元にはトレードマークの草履が…。

マレーシアサバ大学国際熱帯林業学部 4 年生海外実習を受け入れました

国際交流委員会

東京大学演習林では、2012 年に大学院農学生命科学研究科と国際交流協定を締結したマレーシアサバ大学国際熱帯林業学部の海外実習を受け入れました。学部 4 年生 21 名、引率教員 3 名が 2013 年 4 月 7～14 日の日程で千葉演習林、弥生キャンパス、富士癒しの森研究所、秩父演習林および周辺の民間施設等を歴訪し、見学や実習、日本人学生との交流、周辺の製紙工場、プレカット・集成材工場の見学などのプログラムをこなしました。内容は盛り沢山でしたが、学生はみな熱心に取り組み、有意義な実習となりました。東京大学の行動シナリオ FOREST2015 で、研究科は教育研究施設の国際的な利活用を推進すると宣言していますが、今

回の実習受け入れはこのシナリオの実現にも貢献するものです。



森林科学専攻学生との交流会に参加した両国のメンバー

千葉県立君津青葉高校が「第 3 回 高校生環境活動発表会全国大会」で 優秀賞を受賞

千葉演習林

君津青葉高校は、千葉演習林の協力を受けながら、房総半島で希少種となっているヒメコマツの保全活動に取り組んでいます。2013 年 2 月 9～10 日に行われた第 3 回高校生環境活動発表会全国大会において、君津青葉高校は自校の環境活動発表の中で、ヒメコマツの保全のためのさし木試験を含んだ発表を行い、優秀賞に輝きました。さし木は千葉演習林が指導した方法で行われ、生徒たちは見事にヒメコマツの発根に成功しました。君津青葉高校の環境活動が全国的にも高く評価されたことは、技術協力を行った千葉演習林にとっても大変嬉しいことでした。



表彰式の様子

福島第一原子力発電所の事故に伴い放射性セシウムが広範囲に飛散しました。そこで東京大学演習林では森の恵みの安全性を評価するため、野生キノコ、山菜、野生動物肉、薪、炭の放射性セシウム汚染状況を調べています。放射性セシウムはキノコに集積すると言われますのでキノコを中心に調べました。放射性物質の飛散経路上にある秩父演習林でリターの汚染度が比較的高く、いくつかのキノコで現在の基準値を超える放射性セシウムが検出されました。富士癒しの森研究所や千葉演習林でもキノコや土壌が低いレベルで汚染されていましたが、北海道演習林、生態水文学研究所では今回の事故による汚染は確認されませんでした。キノコの汚染は全般にリターより低く、キノコに集積する傾向は認められませんでした。個々のキノコではチャナメツムタケが特に高濃度の放射性セシウムを含み、ハナイグチが50年ほど前の核実験由来と考えられるセシウム137を多く保持していました。これらの結果は、農学部の第二回および第六回「放射能の農畜水産物等への影響についての研究報告会」で報告し(<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/index.html>)、またSpringer社から出版された本に掲載されました(<http://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54328-2/page/1> から自由に閲覧、ダウンロードできます)。



キノコ(左)とその下のリターや土壌(右)から試料を採取

演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください、各演習林にお問い合わせください。

4月	4日 東海テレビ スーパーニュースの特集番組 「森は生きている」(生水研)	2日 「子ども樹木博士」認定会(田無)	9日 とよた森林学校2013「森林セミナー」 森林の持つ公益的機能(生水研)
4~5日 新規採用職員研修(富士)	6日 鶴川市共同事業「野鳥の巣箱をつくろう(巣箱観察)」(千葉)	16日・23日 赤津研究林案内人養成講習(生水研)	23日 公開セミナー(北海道)
16日 記念樹見学会(生水研)	17日 第1回温室特別公開日(樹芸)	7月	6~7日 総合科目「癒しの森を考える」*(富士)
20日 教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」*(富士)	20~21日 千葉演習林「春の一般公開」(千葉)	7日 大麓山ハイキング登山会(北海道)	7日 君津市スクールミュージアム「坂畑小の東大演習林観察会」(千葉)
20日 第2回温室特別公開日(樹芸)	28日 休日公開(田無)	23日 公開講座「子ども樹木博士」(樹芸)	27日 JSTサマー・サイエンスキャンプ
		30日~8月2日 「森林の未来は?~森を知り、持続的な取り扱いを考える~」(北海道)	30~31日 高校生ゼミナール(千葉)
5月	5日 休日公開(田無)	8月	6~10日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」*(樹芸)
8日 BSフジ「風の見た自然たち」(千葉)	11日 全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成」*(田無)	7~10日 全学体験ゼミナール「夏版伊豆に学ぶ1」*(樹芸)	20~24日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」(樹芸)
12日 多摩六都科学館共同事業 「東大演習林の生きもの観察探検隊!」(田無)	12日 公開講座「春の散策」(樹芸)	21~24日 全学体験ゼミナール「夏版伊豆に学ぶ2」(樹芸)	未定 運動会学生との共同作業(富士)
12日 17~18日 春の自由見学日(秩父)	11~12日 全学体験ゼミナール「危険生物の知識」*(秩父)	未定 夏の公開講座(飯)(秩父)	
25日 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」*(秩父)	25日 全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成」*(田無)	9月	10~12日 全学体験ゼミナール「癒しの森を創る(夏)」*(富士)
26日 「犬山の森」春のふれあい自然観察会(市民参加)(生水研)	26日 神社山自然観察路春季一般公開(北海道)	19~23日 全学体験ゼミナール「夏版伊豆に学ぶ3」*(樹芸)	26~30日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」*(樹芸)
26日 1~2日 総合科目「ダムと森林」*(生水研)		27~30日 全学体験ゼミナール「森に学ぶ(伊豆)」*(樹芸)	

凡例…無印:一般向け ☆:学生向け ◆:その他

科学の森の動植物紹介

エゾヒグマ ネコ目クマ科

学名：*Ursus arctos yesoensis*

日本最大の陸上哺乳動物であるエゾヒグマは、北海道のみに分布します。北海道のアイヌの人々はキムンカムイ（山の神）と呼んで崇めていました。警戒心が強いことと、犬の約5倍も発達している嗅覚により事前に人を察知するため、遭遇する機会は多くありません。北海道演習林における過去6年間（2007～2012年）の目撃情報によると平均目撃回数は6.5回/年となっていますが、創設から現在に至るまでの114年間、エゾヒグマに関する事故は一度も起きていません。

今後もエゾヒグマと北海道演習林とが安心して共生できる森づくりを進めてゆきます。

北海道演習林



センサーカメラにより自動撮影されたエゾヒグマ

名所名物案内

古在ヶ原（こざいがはら）

富士癒しの森研究所

当研究所内に「古在ヶ原」と呼ばれる草原があります(写真)。命名された経緯は不明なのですが、1935年作成の鳥瞰図にはすでに「古在ヶ原」の文字があり、今の草原よりもっと広い範囲に樹木のまばらな草原がひろがっていたことが分かります。富士癒しの森研究所(旧富士演習林)の創設は1925年で、当時の東京帝国大学総長「古在由直」の名前から付けられた名称だと思われます。古在由直は農科大学の帝国大学への移管、足尾鉍山鉍毒事件の調査、関東大震災後の対応など、数々の仕事を成し遂げました。農科大学学長時代には、朝鮮半島に江原道演習林と全羅南道演習林、樺太演習林、秩父演習林を新設し、総長時代に愛知演習林（現生態水文学研究所）、富士演習林を新設するなど、演習林には特に縁の深い総長であると言えるでしょう。農学分野からの唯一の東大総長でもあり、改めてスポットライトを当ててみたい人物です。



現在の古在ヶ原

科学の森ニュース（The University of Tokyo Forests News） 第62号（No.62）

発行日 平成25年6月10日

発行人 鈴木雅一

編集人 後藤 晋

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2010@uf.a.u-tokyo.ac.jp